

# 小平市議会定例会 代表質問通告書

質問件名 誰もが住み続けたい小平市であるために

質問要旨 (初めに質問全体の趣旨、次に具体的な質問内容を項目別に記入してください。)

人口減少社会を迎えてますが小平市では人口は微増している状況で、推計による人口のピークも 2030 年とされています。しかしながら少子高齢化や働き盛り世代の人口は減少しており、住み続けたいと思う市民、転入したいと思う人を増やすためには、より魅力的で暮らしやすいまちづくりが必要です。

2026年度は小林洋子市長の2期目、2年目の年です。2月4日の全員協議会では、予算編成に当たっての施政方針として「つながる笑顔と未来を育む予算」であるとの発言がありました。

誰もが住み続けたいと思えるようなまちづくりのために以下質問します。

## 1. 生活の基盤となる社会インフラの充実について

(1) 公共施設マネジメントは人口減少や財政のバランスをとることを目的とした取組で、市民にとっては床面積の縮減や公共施設が自宅から遠くなるなど利用しにくくなる場合が多くなります。取組を進めるにあたっては、市と市民のより多くの対話が必要と考えますが、ご見解をお示しください。

(2) 高齢者だけでなく、障がい者、子育て世代に向けても一層の公共交通の充実が必要です。バスやタクシーの運転士不足などの課題を解決し、市民の移動手段を確保することについてお考えをお示しください。

2、2026年竣工予定の小川駅西口再開発ビル内には男女共同参画センターも配置されます。センター機能の一層の充実が求められますが、本年1月に示された国の男女共同参画センターにおける業務及び運営についてのガイドラインをどう反映させていくのかお示しください。

3、地域でエネルギーや農産物を地産地消することは、市民の暮らしを豊かにすることにつながります。重要性をどのように捉えていますか。

4、小平第十一小学校等複合施設の普通教室の配置について、普通教室を向かい合わせに配置し、その間にオープンスペースを設ける形状にすることが決まりました。これにより期待する効果と今後の小平市の教育をどう進めていくのかお示しください。

上記のとおり、小平市議会会議規則第 57 条第 2 項により通告します。

2026 年 2 月 10 日 小平市議会議長 殿

会派名 生活者ネットワーク

受付番号【 】- ( / )

代表質問議員氏名 さとう 悅子

整理番号(通し No.)……( )